



EHIME ROUSAI HOSPITAL KANGOBU NEWS NURSE LETTER

3
Month



1月31日に「平成22年度 看護部ケアチーム活動報告会」が行われました!

褥創ケア ~DESIGN~

褥創に関しての知識が浅いと感じ、研修で学びました。年間活動である褥創回診では、「DESIGN」を用い正確に創状態の評価を行います。チーム会で症例検討を重ねる事で知識の共有化が図れ、実践に活用する事が出来るようになりました。寝たきりや低栄養、脆弱な皮膚の為、褥創が発生しやすい状態にある患者に、この経験を活かし、予防・早期対処出来るよう頑張りたいです。

南4病棟 杉野 加代子

H22年度2月現在
ラウンド件数: 66件
症例検討数: 10件

緩和ケア ~一般病院だからこそチームの存在が重要~

H22年度3月1日現在
カンファレンス件数
: 33件
ラウンド件数
: 9件

癌患者の症状緩和・心理的アプローチ・家族看護に重点を置き、医師やコメディカルとの連携を図り病棟ラウンド型の活動を行っています。現状ではチームへの依頼件数が少ない為、対象を終末期の患者に広げ、デスカンファレンスや事例検討にて看護を振り返っています。チームの専門性を高める為認定看護師や専門分野の研修受講に研鑽しています。「一般病院だからこそチームの存在が重要」と確信できるよう、今後もチーム力を発揮していきたいと考えています。対象者がしれば、是非声をかけて下さい。

北5病棟 藤田 寿美代

看護部
チーム会
症例発表

NST ~栄養サポート専門療法士~

北6病棟 阿部 香

TNP開始後に低P血症が出現した、褥創、摂食障害の患者を通して「リフィーディング症候群」について考えることができました。P吸収促進のため、特別対応食でチーズやヨーグルトの捕食を行ったり、免疫の向上と創治癒促進効果がある「アルギニンジュース」の飲用も試みました。創治癒段階に合わせ、褥創チームとの連携を図ることで、創治癒改善に奏効したとしました。

この度ICJの加地さんが機関の「栄養サポートチーム専門療法士」試験に合格され、チームの強化が図られました。

困ったことがあれば、相談してみたいはいいかがでしょうか?

H22年度2月現在
ラウンド件数:132件
新患数:42名 VF人数:11名

糖尿病ケア ~フットケア~

外来 玉井 美智代

H22年度1月現在
フットケア件数(入院) :39件

5月のフットケア実習後、糖尿病療養指導士と共に入院患者さんのフットケアを実践しています。昨年よりメンバーの関わりが増し、関心や専門性も高まりました。また、糖尿病週間行事として地域で血糖測定などを行い、人々の日常の問題に触れる事も出来ました。今後も糖尿病を通じ行事への参加・フットケアの継続を行い、知識・技術の一層の向上を図って行きたいと思ひます。そして、メンバーが教育的役割を担い、他のスタッフと共に糖尿病患者の支援をしていきたいと思ひます。

救急重症ケア ~備えあれば憂いなし~

北7病棟 塩崎 典子

今年度の院内 AED・ミニ ICLS セミナー受講生は48人で、スタッフの受講率は、80%になりました。AEDの重要性が理解され使用方法が浸透したおかげで、急変時、迅速な判断と対応でAEDが使用でき、蘇生に成功したケースが2例報告されています。

その他の活動として、災害時の混乱に備えアクションカードの作成や、研修会ではトリアージの実際と緊急処置などの演習を行っています。急変時や災害時の対応は日頃からの訓練が必要です。備えあれば憂いなし。みなさん、救急重症コースの研修会を一度のぞいてみませんか?

AED・ICLSセミナー受講率 :80%

サーベイランス ~BSIサーベイランスシート~

北4病棟 中本 真由美

看護師ができるBSI対策は、処置時の適切な手指衛生対策やカテーテル留置中の衛生管理等が挙げられますが、他にも、カテーテル挿入部位やルーメン数の選択、カテーテル挿入時の手指衛生等、医師の協力も不可欠であると感じました。2月からは、いよいよ該部署でBSIサーベイランスシートへの記入が始まります。データ収集し、自分達が観察していくことで、感染に対する意識が高まります。また、院内感染対策マニュアルに沿った処置やケアが出来ているかを振り返ることで、看護の質向上につなげていければよいと感じました。

一年生を終えて思う事

北6 中野内 円香

私にとってこの1年は様々なことを経験できた年となりました。最初は覚えることも沢山あり大変でしたが、いつも先輩方が気にかけて、私の支えとなってくださいました。患者さんからパワーを頂くことも多々あり、「ありがとう」という言葉や笑顔にやりがいを感じます。まだまだ未熟ですが、これからも先輩方の背中を追ってスキルアップしていくと共に、いつも笑顔を忘れずに患者さんに接していこうと思ひます。



北5 徳永 祥子

北5病棟に配属され、はや1年たちました。初めの頃は、何をすることも不安でいっぱいでしたが、少しずつ慣れてきた気がします。これからも1日1日を大切に初心を忘れず笑顔で頑張っていけたらいいなと思ひます。

